

講師

樋口 由貴子

■ 学歴

1. 2017年 産業医科大学修士課程 卒業

■ 学位

1. 2017年 修士（看護学）

■ 研究分野

1. 小児看護学

■ 研究キーワード

1. 子ども
2. 感染症
3. 家族支援
4. 学生健康支援

■ 研究課題

1. 小児看護に関して、子どもの権利を尊重した看護の実際について考察する。また、入院中の患児とその家族の健康管理について考察する。
2. 病気や障害をもつ子どもとその家族への支援について考察する。
3. 学生健康支援の一つとして、本学保健福祉学部 1 年生を対象に健康管理カルテを作成しその有用性について検討を行う。

■ 担当授業科目

1. 小児看護学概論（前期）（看護学科）必須
2. 小児看護学方法論（後期）（看護学科）必須
3. 小児看護学演習（前期）（看護学科）必須
4. 小児看護学実習（通年）（看護学科）必須
5. 看護総合実習・演習（通年）（看護学科）必須
6. 緩和・がん看護学（前期）（看護学科）必須
7. 看護学特論（後期）（看護学科）選択
8. 助産診断・ケア学IV（前期）（助産別科）必須

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	<p>授業科目名【小児看護学概論】</p> <p>子どもの成長と発達を、教科書を基に説明した。学生が興味をもち授業に参加できるよう、また子どもとほとんど接する経験がない学生も理解できるように動画などを用い講義した。毎回「学び票」の提出を求め、学生の理解を確認した。学生の質問などには、次の講義時に再度説明を入れるなどの工夫を行った。また、途中、小テストを実施し、学生の理解度を確認しながら講義を進めた。小テストの得点率は高いが、定期テストでの得点率は低くなったことから、知識を定着することが課題となった。概論だけでなく、方法論、演習、実習などに繋げ、反復して学修できるよう工夫していく。</p>
2.	<p>授業科目名【小児看護学方法論】</p> <p>疾患や障害をもつ子どもと家族の看護について講義した。講義では、子どもの権利や子どもの発達を踏まえ、小児看護として工夫をする事の必要性を実感し、学生一人一人が看護を考える事が出来るように発問しながら講義を行った。また、小児をとりまく社会や援助方法に興味を持つために、個人ワークとその発表を行った。小児医療の現場がイメージできるよう、DVDや画像、また、実習中の学生が実施したプレパレーションなどの事例の画像を用い説明した。</p> <p>障がいのある子どもと家族の看護、被虐待児への看護については、実際に現場で働く外部講師に講義を依頼した。現場の写真などを多く取り入れ看護の実際を講義していただくことで、学生の興味や学修意欲を増加させた。</p>
3.	<p>授業科目名【小児看護学演習】</p> <p>ペーパーペイシエントを用いた看護展開と実技演習を対面で実施した。事例検討では小児看護の現場で遭遇しやすい事例を作成し、看護展開をおこなった。実際の患児や家族がイメージできるように、DVDや写真を取り入れ状況を理解し、看護展開できるよう工夫した。アセスメントまでを個人ワークとし、計画立案はグループワークでディスカッションしながら理解を深めていけるようにした。個人ワークについては、個別にコメント入れ、学生へ返却し、それぞれの学生が理解できるように対応した。グループワークについては、発表を行い、その後、全体でディスカッションすることで、理解を深めた。技術演習では、短時間ではあるが、個人練習ができる環境を整えた。自己練習をする学生は少ないため、実習前に技術チェックを行い、反復して学修することで技術が習得できるようにした。</p>
4.	<p>授業科目名【小児看護学実習】</p> <p>今年度は、半日の臨地実習で実習を行い、残り半日を学内実習となった。短時間での臨地実習のため、学生が再大限に経験できるよう、臨床指導者と時間や方法を調整した。また、学生と共に患児のベッドサイドに行き、コミュニケーション方法や技術提供方法等の指導を行った。臨床側にも、それぞれの学生の課題を伝え、目標達成できるよう支援を求めた。半日の臨床での経験を基に、学内ではリフレクションを通し看護を見出していった。グループでリフレクションすることで、短時間の臨床実習時間であっても学びを深めることが出来ていた。また、看護師以外にも医師、医療保育専門士、こども療養支援士などと学生が関わり学べるよう調整した。</p>
5.	<p>授業科目名【看護総合実習・演習】</p> <p>看護総合演習では、小児医療の現場で起こる倫理的問題を、事例をあげディスカッションすることで、子どもの人権の擁護や倫理的配慮について学びを深めた。その後、学生それぞれの探求したいテーマに沿い、文献を用い、現在の状況と課題を見出し、発表を行った。</p>

	看護総合実習では、演習で学んだ知識・技術を小児外来と子育て支援施設実習を通し、看護の実際を学んだ。それぞれの学生が、実践を通し、看護実践の難しさ、やりがいを学び、自己の課題を見出すことができていた。最終的に、学生それぞれの探求したいテーマで論文を作成し、研究的思考ができるよう支援した。
6.	<p>授業科目名【緩和・がん看護学】</p> <p>小児の緩和・終末期・がん看護について1コマを担当した。DVDを用い小児の緩和・終末期医療の実際を紹介し、看護師として、どう向き合うかを思考できるように講義を展開した。「生きる」を大切にする看護の重要性について教授した。</p>
7.	<p>授業科目名【看護学特論】</p> <p>これから看護職として社会にでる4年生後期に開講された。1コマを小児医療のトピックとして、小児救急の現状や課題について、事例や統計を用い、看護師としてできること、大切にしていきたいことをそれぞれの学生が考える機会になるよう講義を展開した。理解状況としては、講義内容を小テスト形式で出題し、把握した。</p>
8.	<p>授業科目名【助産診断・ケア学Ⅳ】</p> <p>助産別科前期「助産診断・ケア学Ⅳ（新生児・乳幼児）」では、乳幼児の発達について講義した。さらに、助産師として乳幼児と関わる中で遭遇しそうな事例を挙げ、事例検討する中で乳幼児の特徴を捉え児と家族への援助について思考できるよう工夫した。</p>

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	2002年4月～現在に至る	日本看護協会会員	
2.	2009年1月～現在に至る	日本小児看護学会会員	
3.	2009年4月～現在に至る	日本小児保健協会会員	
4.	2010年10月～現在に至る	日本環境感染症学会会員	
5.	2013年6月～現在に至る	日本看護科学学会会員	

■ 研究業績等に関する事項（2023年度）

	発行又は発表の年月	著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
（著書）					
1.	なし				
（学術論文）					
1.	2023.4	本学学生を対象にした「健康管理カルテ」の作成	共	西南女学院大学保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2022 報告書	①本学学生の健康維持・増進に向けた学生支援の取り組みとして「健康管理カルテ」を作成し、2021年度保健福祉学部入学生および2022年度大学部・短期大学部入学生へ配布した。また、本年度の使用状況について調査した。その結果、本学

					<p>学生は健康管理カルテを体調不良時や実習前に活用していることが明らかとなった。また、学生にとってより利用しやすくなるよう今後の健康管理カルテの運用方法について考察した。</p> <p>②共著者：○水貝洵子，山田恵，樋口由貴子，目野郁子，高崎智子，大内田知英</p> <p>③西南女学院大学 保健福祉学部附属保健福祉学研究所 2022 報告書(P10-13)</p>
(翻訳)					
1.	なし				
(学会発表)					
1.	2023.11	A 女子大学における「健康管理カルテ」の作成と配付ー学生の自己管理能力向上をめざしてー	共	一般社団法人日本学校保健学会 第 69 回学術大会 (於 聖心女子大学)	<p>①概要：本学 1、2 年生を対象に配布した「健康管理カルテ」の利用状況を調査した。その結果から、入学直後に配布した学生はあらゆる場面で利用しており、自身の健康に関心を持ち、健康意識が高まるよう入学直後の配布が望ましいこと。また、今後の利用意志のない学生も一定数いたことから、配布後も定期的に働きかけをする必要があることが分かった。</p> <p>②共同発表者名：○山田恵，水貝洵子，樋口由貴子，目野郁子，高崎智子</p> <p>③一般社団法人日本学校保健学会 第 69 回学術大会講演集(P130)</p>
2.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究				
	研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（ ）内は学外者	交付決定額 (単位：円)
1.	なし			
(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

1.	なし		
----	----	--	--

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2021年4月～現在に至る	九州・沖縄 小児看護 教育研究会	幹事
2.	2024年3月(1日)	北九州市小児慢性特定疾病対策 協議会	委員

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2011年6月～現在に至る	保健福祉学部1年生および助産 別科1年生への感染症予防／予 防接種手帳配布と抗体検査後の 予防接種勧奨	
2.	2022年4月～2024年3月	キャンパスハラスメント相談委 員	
3.	2022年4月～現在に至る	学生募集員	
4.	2016年5月～現在に至る	親子遊びの会「ほほえみ project」運営	
5.	2022年4月～現在に至る	地域貢献活動企画名「一緒に遊 ぼう」、団体名「ちゃれんじ」 の運営	
6.	2023年4月～現在に至る	学生活動グループ「STEP UP」 の支援	